

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- 1 コロナ禍でも被災地支援等の取り組みを展開
- 2 令和2(2020)年度研究戦略センター研究成果の紹介
- 3~4 情報ひろば
- 5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センター MIRAI

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和3年(2021) 9月 Vol.89

兵庫県こころのケアセンター コロナ禍でも被災地支援等の取り組みを展開

兵庫県こころのケアセンターは、国内外の災害や事件・事故で被害を受けた方への支援等、関係機関と調整の上、個人や組織へのこころのケアに関する助言を行っています。

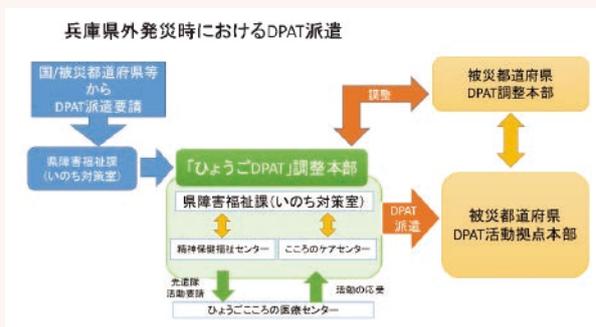
令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、当センターの機能を発揮すべく鋭意取り組みを進めてきました。地域支援活動として、①東日本大震災や熊本地震等への被災地支援にあたる他府県からの要請に応じて、オンライン等による支援者のメンタルヘルス対応や遺族支援の助言指導、②南海トラフ地震をはじめとして、近い将来発生するおそれのある大災害に備えた全国規模の防災担当職員向けの研修講師、③医療機関や行政機関等への感染症危機対応に係るコンサルテーションなどを実施しました。

また、大規模災害発生時に精神科医療および地域精神保健活動の支援を行う専門チームとして、災害派遣精神医療チーム「ひょうごDPAT」が平成26(2014)年12月19日に発足。活動の指針となる「ひょうごDPAT活動マニュアル(平成27年3月策定)」を令和3年3月に改訂し、当センタ

一のホームページに掲載しました。これにより、組織体制や命令系統が整理され、活動の基本的方向性がより明確になりました。

さらに、「ひょうごDPAT」は、多様な保健医療活動チームとの連携を含め、災害時精神保健医療のマネジメントも行えるよう資質向上を目的として、兵庫県内の精神科医療機関等を対象とした研修も継続実施しています。令和2年度の研修では、災害時に使用する通信機器やクロノロ(経時活動記録)演習などの実践演習のほか、感染症対応演習も盛り込みました。

その他、相談室と診療所では、トラウマやPTSD(心的外傷後ストレス障害)等に関する専門相談や治療を実施しており、DVや虐待、性被害の相談件数が増加している中、トラウマに特化した専門的な治療の社会的有用性は高い状況です。PTSD症状により、就労や対人関係等のさまざまな生活上の問題を抱える人も少なくないため、治療と並行して、社会資源を提供したり地域の支援機関につなげるなど、安心安全な環境整備も支援しています。



「ひょうごDPAT活動マニュアル」Ver2.0から抜粋



ひょうごDPAT研修会

こころのケアの主な活動実績

- JR福知山線脱線事故(H17年)
- 新潟県中越沖地震災害(H19年)
- 東日本大震災(H23年～)
- 西日本豪雨災害(H30年～)
- スマトラ島沖地震における津波災害(H17年)
- ニューギニア地震(H23年)
- 能登半島地震災害(H19年)
- 台風第9号災害(H21～24年)
- 熊本地震(H28年～)
- 新型コロナウイルス感染症に関する危機対応(R2年～)
- 中国四川大震災(H20～23年、H25～26年)
- チリ大地震(H27年～29年)

令和2(2020)年度研究戦略センター研究成果の紹介

「南海トラフ地震に備える政策研究」

主任研究員 吐合 大祐



本研究会では、「南海トラフ地震」に備える政策の在り方について、6つの部会・分科会に分かれて研究を進めています。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から活動範囲が制限されましたが、どの分科会も、オンラインで研究会を開催するなどそれぞれの研究テーマに取り組みました。昨年度の各研究会の取り組みを簡単に説明します。

「災害シナリオ部会」では、災害時の長期停電に注目し、長期停電が発生する要因として土砂崩れ等の発生などを取り上げ、日本の送電網が抱えるリスクを定量的に検証しました。それに関連して、長期停電の発生が経済被害や被災者の体調変化に及ぼす影響についてのシミュレーション分析に取り組みました。

「復興組織・体制分科会」では、高知県庁に対するヒアリング調査(オンライン)を行い、甚大な被害が想定される自治体の事前防災の取り組みについて調査しました。そして、地震対策をめぐって国や自治体が抱える法制度上の課題や問題点を研究会で検討し、国・自治体が取るべき対応策や制度の在り方を議論しました。

「官民連携分科会」では、経団連や経済同友会、国民生活産業・消費者団体連合会に加盟する民間企業へのアンケート調査を行い、各企業による防災事業への取り組み状況を定量的に分析しました。また南海トラフ地震で大きな被害が想定される南あわじ市を対象にヒアリング調査を

実施し、市と商工会議所・民間企業間の官民連携体制について調査しました。

「災害リスクファイナンス分科会」では、昨年度に引き続き、南海トラフ発生による経済・産業被害の推計作業、復興に必要な政府・自治体の予算支出の推計作業に取り組むとともに、専門家を招いて海外の地震保険制度のレビューを行うなど、南海トラフ地震に備えるための財政上の課題について議論しました。

「都市と住宅分科会」では、京大日立ラボ(日立未来課題探索共同研究部門)と連携し、どのような政策的な条件が住まいの復興に影響を与えるのかについて、これまでの被災地復興に関するデータを用いた大規模計算機シミュレーションを行いました。

「個人とコミュニティ分科会」では、避難行動要支援者の避難支援や仕組みづくりを重要課題として取り上げ、東日本大震災での高齢者・障がい者の被害状況と、要支援者に対する平時・災害時の対応策について分析を行い、南海トラフ地震に向けた避難行動要支援者のケアプランの在り方を検討しました。

令和3(2021)年度は本研究会の活動最終年度です。これまで通り各分科会で研究に取り組み、分析結果を政策提言と合わせて最終報告書としてまとめる予定です。

「広域経済圏活性化による経済成長戦略」

主任研究員 朴 延



日本の経済・産業・教育において、数十年にわたり「東京一極集中」が問題視されている中、政府の「地方創生」政策に欠けている広域的な空間政策を示していくことが課題です。本研究会では、兵庫県の都市・地域を企業にとってより魅力ある場とし、経済を活性化させるため、京阪神地域を中心とする既存の広域経済圏の活力を生かした都市・地域の活性化方策を探るとともに、地域と国全体の成長につながる産官学が連携した政策モデルを検討しています。

本研究会では2つの分科会を設置して研究に取り組みましたが、その一つである「大阪湾ベイエリア構想分科会」は令和2(2020)年が活動最終年度でした。そこでは、前年度に引き続いて大阪湾に面している自治体職員にも参加いただき、従来関西圏の自治体で進められてきた「大阪湾ベイエリア構想」に着目し、関西圏の経済活性化を目指すため、現代にふさわしい都市開発の在り方を議論・検討しました。具体的には、知識社会、ポスト工業化社会での新たな都市整備の在り方を踏まえ、ベイエリア事業の機

能性や推進手法、経済的帰結への影響に関して多角的に分析し、政策の改良や新たな仕組み・制度について提言を行いました。令和3年3月には公開フォーラムを開催し、ベイエリアにおける将来の展望とその発展方策について議論を交わすとともに、2年間の研究で得られた知見を「大阪湾ベイエリア構想分科会最終報告書」(<https://bit.ly/3pqM3fR>)に取りまとめました。

「データ分析分科会」では、国勢調査や兵庫県の経済指標等、社会経済に関するデータを用いて、関西における広域経済圏の実態について、さまざまな観点から分析に取り組みました。具体的には、関西圏での第二層都市圏抽出のための分析モデルの構築、地理情報システム(GIS)を用いた関西地方の経済広域圏の実証、ビッグデータを活用したヒト・モノ・カネの動きの実証分析、自治体の経済・産業政策に対する政治的影響の分析等に取り組みました。

今後も引き続き調査・分析を進め、デジタル革命とグローバル化も視野に入れつつ、研究成果を最終報告書に取りまとめ、政策提言につなげていく予定です。

情報ひろば

兵庫県こころのケアセンター

こころのケアシンポジウム参加者募集

「コロナ禍のメンタルヘルスへの影響」をテーマにしたパネルディスカッションと、兵庫県こころのケアセンターの研究報告を行います。

- 日 時 = 12月2日(木)13時30分～16時30分
- 会 場 = 兵庫県こころのケアセンター
- プログラム
 - 第1部 研究報告
桃田 茉莉(兵庫県こころのケアセンター 主任研究員)
 - 第2部 パネルディスカッション
パネリスト
田中 恭子(国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部児童・思春期リエゾン診療科診療部長)
当麻 美樹(兵庫県立加古川医療センター 副院長)
原田 奈穂子(宮崎大学医学部看護学科 教授)
加藤 寛(兵庫県こころのケアセンター センター長)

- 参加方法 = 会場およびネット配信
 - 参加費 = 無料
 - 申し込み方法 = 所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールで下記申し込み・問い合わせ先へ。先着順で受け付け、定員(250人)になり次第締め切ります。
- ※下記ホームページからプリントアウトできます

【申し込み・問い合わせ】

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org
<https://www.j-hits.org/>
※ネット配信希望者は原則Eメールでお申し込みください

研究戦略センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」 第31号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。11月発行予定の第31号の特集では、新型コロナウイルス感染症が現在の社会に多くの課題を突き付けたことを踏まえ、「ポストコロナ社会の課題と展望」を取り上げます。コロナ後のデジタル化の行方や持続可能な地域づくり、社会の絆の再生や格差是正に向けた社会システムの再構築など、幅広い観点から今後のあるべき社会像について考えます。

【内容】

- 巻頭言 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長 五百旗頭 真
- 特集 「ポストコロナ社会の課題と展望」
(執筆者)
京都大学こころの研究センター副センター長・教授 広井 良典
関西大学社会学部教授 草郷 孝好

甲南大学文学部教授 阿部 真大
大阪市立大学大学院准教授 松永 桂子
兵庫県立大学社会情報科学部准教授 笹嶋 宗彦

■トピックス

- 第20回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)受賞論文
- ▶ B5判 約120ページ
- ▶ 発行 = 年2回
- ※既発行号等については、当機構のホームページをご参照ください
<https://www.hemri21.jp/research/research-the21-hyogo/>
- ▶ 購読料 = 800円(送料別途)
- ※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

【申し込み・問い合わせ】

研究戦略センター学術交流部交流推進課
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール gakuju@dsri.ne.jp

思いに色を、カタチを与える

写真集・詩集・自費出版の
お問い合わせは

神戸新聞総合印刷
神戸新聞総合出版センター
<https://www.kobepn-printing.co.jp/>

研究戦略センター

第20回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)の受賞者決定

「アジア太平洋研究賞(井植記念賞)」は、日本の大学で学んだ日本人および留学生等が執筆したアジア太平洋地域に関する人文・社会科学領域の優れた博士論文を顕彰するため、平成13(2001)年に創設されました。

今回は、平成28年3月以降に大学院博士課程を修了し学位取得済(同時期に単位取得退学し、その後博士学位

を取得した場合も含む)、かつ大学院の指導教員の推薦を受けた者を対象に募集を行いました。

全国の大学院から応募のあった論文について、選考委員会における厳正な審査の結果、第20回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)の受賞者が決定しました。

■アジア太平洋研究賞(井植記念賞) 本賞 受賞者(1名)

岡田 美保(防衛大学校グローバルセキュリティセンター 共同研究員)

「日ソ国交回復交渉の再検討—ヤルタ合意と二つの対日交渉方針—」

【論文の概要】

本論文は、1955年6月から1956年10月の間の日ソ国交回復交渉を、ソ連外交の視点を加えて捉え直したものである。日本との交渉に臨み、ソ連の政治指導部内には、スターリンの成果である領土の現状を維持すべきとする外務省の方針と、これとは対称的なソ連提案とが浮上した。ソ連提案は、千島列島と南樺太の国際的承認確保を重視し、ソ連の安全保障と東アジアの緊張緩和促進とを同時に達成しようとするところに狙いがあった。二つの方針の対立は、平和条約方式が暗礁に乗り上げた後も維持された。日ソ共同宣言は、日ソ間に継続審議に関する同床異夢を残したまま、またソ連政治指導部内の対立を解消しないまま署名され、戦後日ソ関係の起点となったのである。

■アジア太平洋研究賞(井植記念賞) 佳作 受賞者(3名)

于 海春(早稲田大学現代政治経済研究所 次席研究員)

「中国の権威主義体制下におけるメディア統制の重層性—現代中国におけるローカルメディアとメディアシステムの比較分析を通じて—」

【論文の概要】

本論文は、地域比較の視点からローカルメディアのニュース生産に影響を与える要因を分析し、改革開放以降中国の権威主義体制下におけるメディア統制システムの重層性と多様性を明らかにするものである。本論文では実証分析の結果を踏まえて、結論として以下の3点が指摘できる。1点目は、中国の権威主義体制下におけるメディア統制手段の多様化と統制技術の洗練化が見られる点。2点目は、中国におけるメディア統制システムの重層的な構造とローカルメディアシステムの多様化が実証された点。3点目は、習近平政権以降の中国ではメディア統制が大きく変化し、新たな段階に入った可能性が高い点である。

長岡 慶(関西大学 日本学術振興会特別研究員(CPD))

「現代ヒマラヤ世界におけるチベット医学の制度化と病気治療—インド北東部タワンの暮らしと病いの民族誌—」

【論文の概要】

本論文は、インド北東部タワンの事例から、チベット医学の制度化が進展する現代ヒマラヤ世界における病いの経験と医療実践を論じ、医療と身体の関係性を明らかにした。従来の研究は、チベット医学の制度化とナショナリズムやアイデンティティ、グローバル化との結びつきを論じる一方、地方の治療者や病気を患う生活者の視点は十分に捉えてこなかった。そこで本論文は、制度化されたチベット医学と現地住民が出会う接触領域に焦点をあて、治療者や専門組織、政府、住民の間の相互交渉を民族誌によって詳細に描き、知の体系や制度をこえて、タワンの人々が異なる医療実践の共存するなかで複数的な身体とともに病いを生きる姿を論じた。

南波 聖太郎(ジェトロ・アジア経済研究所 研究員)

「ラオスにおける社会主義と中立主義の相克：デタント期社会主義陣営の最辺境における解放区の多元的展開(1945-1975)」

【論文の概要】

従来の研究では、現在のラオス人民革命党の一元制は、1975年12月2日のラオス人民民主共和国成立(ラオス革命)と同時に確立したとされる。しかし、活動初期に安定的な支配地域を確保できず、中立派という党外勢力との共闘関係に依拠することで初めて解放区を確立した人民革命党は、第2次インドシナ戦争勃発前後に中立派との関係が悪化した際にも、それとの共闘関係を完全には放棄せず、中立派内の愛国中立勢力には解放区内での自立を容認するに至った。そして、ラオス革命時点でも人民革命党と愛国中立勢力の共闘関係は完全には解消されていなかった。成立当初のラオス人民民主共和国では、政治的多元性は残存していたと結論付けられる。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

「ハリー・ポッターと魔法の歴史」

現代のファンタジー文学として、20年にわたり世界的な人気を誇る「ハリー・ポッター」シリーズ。その物語の背景には、イギリスをはじめ世界各国に伝わる魔法や呪文、占いなどが数多く存在します。本展では原作に基づき、ハリーが通った hogwarts 魔法魔術学校の科目に沿って、大英図書館の所蔵品を中心に、古くは4世紀にまで遡る貴重な資料の数々を展示します。

■会 期=9月11日(土)~11月7日(日) ※日時指定制
 ■観覧料=一般2,000(1,800)円、大学生1,500(1,300)円、70歳以上1,000円、高校生以下無料
 ※()内は前売日時指定券料金

◎休館日=月曜日
 ◎開館時間=10時~18時(入場は閉館の30分前まで)
 ※予約・展覧会の詳細は展覧会公式サイト(<https://historyofmagic.jp/>)にてご確認ください
 ◎予約・展覧会についての問い合わせ
 TEL 078-262-1011



「薬草書」
 15世紀 大英図書館蔵
 ©British Library Board



ジム・ケイ『ハリー・ポッターと賢者の石』の9と3/4番線の習作
 ブルームズベリー社蔵
 ©Bloomsbury Publishing Plc
 2015

JICA関西

◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。月替わりエスニック料理もご好評いただいております!10月のエスニック料理は「世界遺産ミックスプレート」です。お楽しみに!



写真は9月のホンジュラス料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→



JICA関西食堂
<https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から20時まで
 ※各終了30分前ラストオーダー
 コロナの状況を踏まえて営業時間が変更になる可能性があります。詳しい営業時間についてはJICA関西ホームページをご確認ください。
 ■定 休 日=年中無休(年末年始を除く。)

◎問い合わせ
 JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課
 TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342
 Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
 その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!
 → <https://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

令和3(2021)年7月および8月に頻発した大雨や台風により全国各地で被害が生じています。日本赤十字社では災害発生初期から被災地へ救護班を派遣し、現地での診療やこころのケアなどの活動を行っています。このような災害救護活動は、皆様からお寄せいただきました活動資金により成り立っています。

活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/> →



また、現在募集中の義援金はこちらのホームページをご確認ください。ご協力いただいた義援金は、被災県の義援金配分委員会を通じて被災者に届けられます。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/#kokunai> →



◎問い合わせ
 ☎ 0120-078-456

赤十字 兵庫 検索

 日本赤十字社 兵庫県支部
 Japanese Red Cross Society

「夏休み防災未来学校2021」を開催

人と防災未来センターでは、7月22日(木)から8月31日(火)まで、子どもから大人まで誰もが防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校」を開催しました。昨年度はコロナ禍のためオンラインプログラムが中心でしたが、本年度は新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら参加人数を制限してセンターを会場とした参加型ワークショップを実施し、一部プログラムは並行してオンライン配信も行いました。配信プログラムは、YouTubeでアーカイブ映像を見ることができますのでぜひ「夏休み防災未来学校2021サイト(<https://hitobou.com/event/summer/>)」をご覧ください。

1 東館3F「BOSAIサイエンスフィールド」スペシャルツアー (7/22など計10日間)

今年6月30日(水)にリニューアルオープンした東館3階「BOSAIサイエンスフィールド」をアテンダントがガイドするスペシャルツアーを、「風水害」「地震と津波」の2つのテーマで実施しました。



2 みんなで歌づくり:メッセージを伝えよう! by BloomWorks (7/25)

いざというときに自分や大切な人の命を守るためにはどのようにすればいいのかを参加者の言葉を紡いで歌にするワークショップを、神戸発・防災音楽ユニットBloomWorksの司会進行で実施しました。参加者の皆さんから出た言葉から、いざというときに役立つ歌が出来上がりました。生配信したYouTubeでアーカイブをご覧ください。



3 なんでもつかめる?ロボットハンドをつくってみよう! (7/27・28)

日常から災害時までさまざまな場面で活躍するロボットについて学び、ペットボトルや風船など身近な材料を使って、実際に救助活動等でも使われているのと同じ仕組みのオリジナルのロボットハンドを工作しました。



4 光と電気を知って、LED防災ランタンをつくろう! (7/29・30)

LEDライトの回路と発光の現象を学び、ペットボトルと光ファイバーを使って、災害の備えとなる防災ランタンを手作りしました。



5 ペットボトル地震計をつくろう! (7/31・8/1)

地震計の原理を学び、実際にペットボトルや乾電池など身近な素材を使って、本物と同じ仕掛けのペットボトル地震計を製作しました。(協力:京都大学阿武山観測所、原案:神奈川県温泉地学研究所)



6 防災怪談ばなし&防災妖怪ワークショップ (8/5)

日本にはいろいろな妖怪の物語が語り継がれています。その物語が人間に何を教えてくれるのか、防災と妖怪は関係があるのかなど話を聞いた上で、参加者それぞれが自分の身の回りに現れるかもしれないオリジナルの妖怪を描きました。生配信したYouTubeでアーカイブをご覧ください。(講師:高田知紀兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授、兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)



7 地震の周期を学ぶゆらゆら3兄弟をつくろう! (8/7・8)

紙パックとペットボトルのキャップを使って、地震による震動の周期や高層ビルの低層階と高層階の揺れの違いなどについて学べる装置を手作りしました。



8 遊んで学ぼう!ロボットボールで防災プログラミング! (8/12・13)

災害が起きたときの避難行動やその順番を学ぶため、街の地図から避難経路を選ぶプログラミングされたロボットボールを自走させるワークショップを実施しました。



(講師:ピニエロ アベウ タイチ コンノ主任研究員)

9 ロープワークでミサンガをつくろう! (8/15・17)

非常時に役立つ本結びや二重8の字結びなどのロープの結び方(ロープワーク)を覚えながら、カラフルな紐とビーズを使ってミサンガを作りました。



10 身近なものでいろいろつくろう! (8/17)

阪神・淡路大震災の経験を若い世代に伝える活動を行っている「117KOBEぼうさい委員会」の大学生たちが講師となり、ポリ袋でレインコートを作ったり、新聞紙でスリッパを折ったりして、身近な素材でいざというときに役立つ知識を身に付けました。



りょうり 「綾里 津波のあいだ展 in 神戸」を開催

7月20日(火)から8月15日(日)まで、企画展「綾里 津波のあいだ展 in 神戸 明治三陸津波(1896)～昭和三陸津波(1933)～東日本大震災(2011)を超えて」(主催:綾里地区研究会、協力:阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)を西館1階ロビー(無料ゾーン)で開催しました。

東日本大震災10年の節目に、都市・建築史系を中心とした学術グループ「綾里地区研究会」が平成23(2011)年の東日本大震災以降、岩手県大船渡市綾里地区において実施した、明治三陸津波、昭和三陸津波、東日本大震災の3度の津波災害による被害の比較や地域社会・文化への影響、津波の記憶継承の方策等につ

ついての研究・活動の成果を展示・紹介しました。

また、関連イベントとして、オンラインシンポジウム「記憶の分有」とギャラリートーク全7回を実施しました。



「六甲山の災害展2021」を開催

例年夏休み期間中に実施している企画展「六甲山の災害展」(主催:兵庫県〈治山課・砂防課・六甲治山事務所・神戸土木事務所〉、国土交通省六甲砂防事務所、神戸市建設局防災部防災課)を本年度も8月17日(火)から8月29日(日)まで、西館1階ロビー(無料ゾーン)で開催しました。

過去に六甲山で起きた土砂災害に関するパネルや、六甲山系立体模型などを展示し、毎日スタッフによる展示解説も行いました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人: 600円(450円) 大学生: 450円(350円)
東館のみ観覧の場合
大人: 300円(200円) 大学生: 200円(150円)
高校生、中学生・小学生: 無料
※()内は20名以上の団体料金
※障がい者、70歳以上の高齢者割引有
※毎月17日は、入館無料
(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

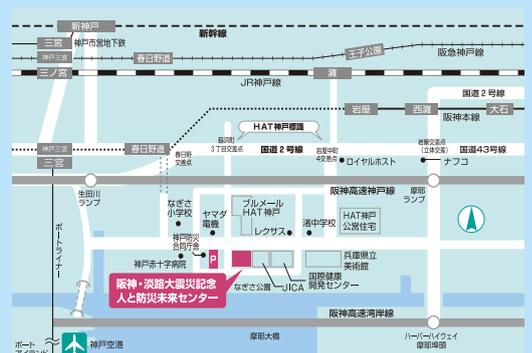
バス

- ・三宮駅から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



令和3(2021)年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースを開催

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14(2002)年度から実施しています。災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ3,455人が修了し、受講者から高い評価を得ています。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、防災業務初任者から幹部職員までを広く対象に、ベーシック、エキ

スパートA、エキスパートB、アドバンスト／防災監・危機管理監コースの4コースをオンラインで実施しました。

アンケートでは、「災害対策に関する基礎的な部分を幅広く学ぶことができた」「これまでの業務の中でなかなか時間を設けて向き合うことのできない内容に向き合うことができた」「行政の実例等を多く紹介いただいたことで、今後の業務を進める上でのヒントをいただいた」「行政職員として何が出来るかを改めて考えることができた」等の意見を頂きました。

コース名	日程	修了者数
ベーシック	6月 8日(火)～10日(木)	86人
エキスパートA	6月15日(火)～18日(金)	18人
エキスパートB	6月29日(火)～7月2日(金)	13人
アドバンスト／防災監・危機管理監	7月 7日(水)～ 8日(木)	7人
合計(延べ)		124人



講義の様子



演習の様子



講義の様子



受講生の様子



Hem21 NEWS
vol.89

令和3年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください